

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1、理学療法における運動療法の位置づけ、歴史的背景を説明できる。 2、運動療法の定義、目的、種類を説明できる。 3、関節可動域制限に対する理論と方法を説明できる。 4、筋力増強運動、持久力増強運動の理論と方法を説明できる。 5、協調性改善、神経筋再教育、運動学習の理論と方法を説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、運動療法を行う上で特に必要な基本的知識の整理と理解を再確認する。つぎに、関節可動域訓練、筋力増強訓練、持久力訓練、全身調整訓練、リラクゼーション協調運動訓練等、運動療法の基本的療法概念を学習する。			期末試験60% 小テスト40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動療法の概念(歴史、定義、理学療法のかなでの位置付け)						
第2週	運動療法の基礎1(結合組織・関節の構造と機能)						
第3週	運動療法の基礎2(筋・神経系の構造と機能)						
第4週	基本的運動(力源の違いによる分類、筋収縮の状態の違いによる分類)						
第5週	小テスト1(前回までの内容)、関節可動域運動(目的、種類)						
第6週	関節可動域運動1(関節可動域制限)						
第7週	関節可動域運動2(維持目的の方法と実際)						
第8週	関節可動域運動3(改善目的の方法と実際)						
第9週	筋力維持増強運動1(目的と適応、筋力とは、筋力維持増強に必要な基礎知識)						
第10週	筋力維持増強運動2(筋力増強運動の理論と実際)						
第11週	持久力増強運動(持久力とは、筋持久力、全身持久力、持久力増強の理論)						
第12週	小テスト2(第6週～11週の内容)、全身調整運動						
第13週	神経筋再教育と協調性の改善(運動の協調性とは、協調運動障害とは、改善の理論)						
第14週	運動学習						
第15週	国家試験問題の解説						
授業外学習指示等	解剖学、生理学を整理しながら学習しましょう。						

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約39年	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1、筋の基本的構造と筋収縮の生理が理解できる。 2、筋機能としての筋力が理解できる。 3、徒手筋力検査の理論が理解できる。 4、主要な筋の徒手筋力検査が実施できる。			評価方法			
授業概要	理学療法評価の基礎となる筋力測定方法の概要とその実施を習得する。			期末試験(筆記試験、実技試験) 50% 中間試験(口頭質問、実技試験) 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新・徒手筋力測定法 第10版	使用器材	パソコン、ビデオ、配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	徒手筋力テストの概要						
第2週	肩関節のMMT						
第3週	肩関節のMMT						
第4週	肩甲帯のMMT						
第5週	肩甲帯のMMT						
第6週	肘・手関節のMMT						
第7週	肘・手関節のMMT						
第8週	中間試験(口頭質問、実技試験)						
第9週	股関節のMMT 体幹のMMT						
第10週	股関節のMMT						
第11週	膝・足関節のMMT						
第12週	膝・足関節のMMT						
第13週	体幹のMMT						
第14週	体幹のMMT						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示 等	予習としてビデオを見ておく事が大切。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	臨床運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて歩行疾患患者への訓練指導経験有り	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常歩行について歩行周期を踏まえ説明できる。 2 歩行パラメータの計測ができる。 3 異常歩行について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	歩行に関する知識を深め、歩行観察・分析ができるよう学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	観察による歩行分析	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション・正常歩行について						
第2週	歩行周期と各相について						
第3週	正常歩行周期の実技練習						
第4週	実技テスト(正常歩行周期各相における実技と説明)						
第5週	歩行パラメータの計測方法・歩行する身体の基本的な見方						
第6週	パッセンジャーとロコモーターについて						
第7週	ロッカーファンクションについて						
第8週	正常歩行観察						
第9週	正常歩行分析 ①						
第10週	正常歩行分析 ②						
第11週	異常歩行について						
第12週	異常歩行の観察・実技 ①						
第13週	異常歩行の観察・実技 ②						
第14週	国試対策(臨床運動学分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示 等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. ADLについて理解し、バーセルインデックスやFIMを使ってADLの評価ができる。 2. 黄本的動作について学び、動作観察や動作分析が説明できる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する知識を深める。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ADLの概念と範囲について						
第2週	日常生活活動の評価について①						
第3週	日常生活活動の評価について②						
第4週	動作観察と動作分析について						
第5週	ADL評価の実際(バーセルインデックス)						
第6週	ADL評価の練習(バーセルインデックス使用)						
第7週	ADL評価の実際(FIM)						
第8週	ADL評価の練習(FIM使用)						
第9週	補装具について						
第10週	杖・松葉杖の調整法について						
第11週	杖・松葉杖の調整法の練習						
第12週	車椅子の種類と構造・メンテナンス方法						
第13週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)①						
第14週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示 等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	呼吸器・循環器疾患患者への理学療法経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	病態に応じた理学療法プログラム評価実施することができる。 病態に応じた理学療法プログラムを立案することができる。 呼吸介助手技や運動指導を実施できる。			評価方法			
授業概要	呼吸器系疾患とがんのリハビリについて学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	最新 理学療法講座 内部障害理学療法学	使用器材	聴診器・吸引シュミレーターQちゃん				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総 論						
第2週	呼吸器の構造						
第3週	呼吸機能評価①						
第4週	呼吸機能評価②						
第5週	呼吸機能検査						
第6週	慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
第7週	気管支喘息・肺水腫						
第8週	間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群						
第9週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手呼吸介助手技①						
第10週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手呼吸介助手技②						
第11週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手呼吸介助手技の実技テスト						
第12週	人工呼吸管理と理学療法						
第13週	気道内分泌物吸引法及び実技						
第14週	がんのリハビリ ①						
第15週	がんのリハビリ ②						
授業外学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	画像読影	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	CT・MRI画像を診て理学療法治療に活かす経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. レントゲン写真を見て読影ができる。 2. CT・MRI画像などの画像を見て、障害の程度を知る事ができる。			評価方法			
授業概要	解剖学・整形外科学・内科・外傷学・病理学等の基礎的知識に基づいて、画像読影に必要な知識の整理と理解を確認する。次に、画像から病名を診断できるよう学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎から学ぶ 脳画像の読み方	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳画像読影の基礎知識・脳画像の基本						
第2週	磁気共鳴血管画像(MRA)での中大脳動脈閉塞画像・後大脳動脈閉塞						
第3週	脳梗塞・脳出血・その他の脳画像①						
第4週	脳梗塞・脳出血・その他の脳画像②						
第5週	脊柱の画像:頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像①						
第6週	脊柱の画像:頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像②						
第7週	脊柱の画像:頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像③						
第8週	上肢・下肢の画像:肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像①						
第9週	上肢・下肢の画像:肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像②						
第10週	上肢・下肢の画像:肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像③						
第11週	内臓:無気肺・結核・心タンポナーデ・その他の画像①						
第12週	内臓:無気肺・結核・心タンポナーデ・その他の画像②						
第13週	国家試験過去問の画像問題①						
第14週	国家試験過去問の画像問題②						
第15週	国家試験過去問の画像問題③						
授業外 学習指示 等	より多くの画像をみて、正常像・異常像の理解をしておく。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約39年	担当者	河元岩男	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1. バイタルサインを理解でき実施できる。 2. 痛みの評価、知覚検査を理解し実施できる。 4. 深部腱反射・病的反射を理解し実施できる。 5. バランステスト、筋トーン検査を理解し実施できる。 6. 整形外科疾患検査を理解し実施できる。			評価方法			
授業概要	各検査における正常生理、検査の目的・理論的背景を解説したうえで、実技を行います。また、得られた情報の解釈についても学びます。			期末試験(筆記試験、実技試験) 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学 第6版、PT・OTのための測定評価 2形態測定、感覚検査、反射検査	使用器材	パソコン、検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	バイタルサイン-1 P39～						
第2週	バイタルサイン-2						
第3週	痛みの評価-1 P119～						
第4週	痛みの評価-2						
第5週	確認テスト1						
第6週	知覚検査-1 P126～						
第7週	知覚検査-2						
第8週	深部腱反射・病的反射-1 P133～						
第9週	深部腱反射・病的反射-2						
第10週	確認テスト2						
第11週	バランステスト P147～						
第12週	筋トーン検査 P148～						
第13週	整形外科検査-1 P195～						
第14週	整形外科検査-2						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	解剖学、運動学、生理学と関連付けて学習していきましょう。予習としてDVDをみておきましょう。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床で扱う物理療法機器の原理、効果を学ぶ。 疾患別に適応と禁忌を学ぶ。 治療器ごとの特徴と特性を学ぶ。			評価方法			
授業概要	物理の理論を理解して、各物理的な療法、各治療器の使用法、注意点、適応などを学ぶ。			期末試験 60% 中間試験 40 % (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	物理学の復習						
第2週	温熱療法 ① ホットパック						
第3週	温熱療法 ② パラフィン						
第4週	温熱療法 ③ 超短波、極超短波、超音波						
第5週	小テスト1 授業アンケート						
第6週	寒冷療法 ① アイスマッサージ						
第7週	寒冷療法 ② 極低温療法						
第8週	光線療法 紫外線、赤外線、レーザー						
第9週	水治療法 ① 過流浴、気泡浴						
第10週	水治療法 ① ハバードタンク						
第11週	小テスト2 授業アンケート						
第12週	電気療法 ① 低周波						
第13週	電気療法 ① 干渉波						
第14週	牽引療法 頸椎、腰椎						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示 等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	神経・筋障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経・筋障害系疾患の病態と症状、理学療法評価・治療について理解できる。 臨床においてプログラムの応用ができるように学習する。 基礎的な解剖生理学から病態のイメージが一致する事でより深く理解を深める。			評価方法			
授業概要	脊髄損傷、脊髄小脳変性症、多発性硬化症等の疾患の基礎を学習し、その知識に基づき臨床における評価、理学療法のプログラム作成に役立てる。			中間試験 40% 期末試験 60% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	神経筋障害理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション、中枢神経の解剖評価						
第2週	脊髄損傷の症状・合併症						
第3週	脊髄損傷の損傷高位と評価						
第4週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作①						
第5週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作②						
第6週	脊髄損傷の理学療法						
第7週	脊髄小脳変性症						
第8週	筋萎縮性側索硬化症						
第9週	多発性硬化症						
第10週	ギランバレー症候群						
第11週	筋ジストロフィー基礎						
第12週	筋ジストロフィー評価・理学療法						
第13週	総まとめ						
第14週	国家試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習事項の指示を行うので、各自が予習をしたうえで授業に臨むこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法学演習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約39年	担当者	河元岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 運動学総論について国家試験問題レベルを理解できる。 2. 上肢の運動について国家試験問題レベルを理解できる。 3. 下肢の運動について国家試験問題レベルを理解できる。 4. 上肢・下肢の筋について国家試験問題レベルを理解できる。 5. 形態測定について国家試験問題レベルを理解できる。 6. MMTについて国家試験問題レベルを理解できる。			評価方法			
授業概要	解剖学、生理学、運動学で学んだ知識を国家試験問題を解きながら理解を深めます。また、形態測定、MMTについても国家試験の現地問題を解説していきます。			期末試験 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必修ポイント基礎医学・基礎PT学	使用器材	パワーポイント、リハビリル				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動学総論 P182～211						
第2週	運動学総論 P182～211						
第3週	運動学総論 P182～211						
第4週	確認テスト1						
第5週	上肢の運動 P218～221						
第6週	下肢の運動 P222～229						
第7週	上肢の筋 P234～249						
第8週	下肢の筋 P250～262						
第9週	確認テスト2						
第10週	関節可動域測定、四肢長・周径 P149～184						
第11週	徒手筋力テスト-1 P116～148						
第12週	徒手筋力テスト-2 P116～148						
第13週	徒手筋力テスト-4 P116～148						
第14週	確認テスト3						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示 等	解剖学、生理学、運動学のテキストで予習しておきましょう。リハビリルで自己学習を行いましょう。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	栄養と予防の基礎	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	リハビリテーションと栄養のつながりを理解し、リハビリテーション栄養チームにおけるPTの役割を説明できる。 栄養素を理解する。			評価方法			
授業概要	五大栄養素の基本や疾患別の栄養状態・予後・経過を学ぶ。 運動栄養のつながりを学ぶ。			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT/OT/STのためのリハビリテーション栄養	使用器材	パソコン・DVD・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	栄養						
第3週	栄養						
第4週	栄養						
第5週	栄養						
第6週	栄養						
第7週	試験						
第8週	リハビリテーションと栄養						
第9週	低栄養時の代謝						
第10週	運動栄養学とリハビリテーション						
第11週	リハビリテーション栄養チームにおけるPT・OT・STの役割						
第12週	リハビリテーション栄養ケアプロセス						
第13週	リハビリテーション栄養アセスメント・診断推論						
第14週	リハビリテーション栄養診断						
第15週	リハビリテーション栄養ゴール						
授業外 学習指示 等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。 生理学を含め復習をしてください。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	義肢装具学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院で義肢装具のチェックアウト等の経験有り	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やす。 2. 臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。 3. 義肢装具の使用方法を理解し、実際に装着することができる。			評価方法			
授業概要	義肢装具に関する基本的事項を学習し、義肢装具の特性と構造を紹介する。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト義肢装具学	使用器材	パソコン 配布資料、四肢の義足と装具、体幹装具 自助具、四肢の断端モデル、切断部包帯シュミレータ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	義肢装具学 総論						
第2週	下肢装具の部品と機能						
第3週	短下肢装具						
第4週	長下肢装具・股装具・膝装具・靴型装具						
第5週	体幹装具・側弯症装具・上肢装具・自助具						
第6週	単元試験1						
第7週	疾患別装具の処方 脳卒中片麻痺の装具						
第8週	疾患別装具の処方 整形外科疾患の装具・関節リウマチの装具						
第9週	疾患別装具の処方 対麻痺・小児麻痺の装具						
第10週	単元試験2						
第11週	切断と義肢の基礎知識						
第12週	大腿切断・膝離断の基本と義足構造						
第13週	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造						
第14週	大腿義足・膝義足のアライメント 大腿義足歩行にみられる異常歩行						
第15週	単元試験3						
授業外 学習指示 等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	整形外科科学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験12年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解する。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解する。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解する。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解する。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患の実際をテーマに各論を学ぶ。 各部位ごとに発生する疾患の原因、症状、検査、診断、治療、リハビリテーションの実際を学ぶ。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整形外科科学Ⅱ 総論						
第2週	胸郭						
第3週	頸椎・脊椎						
第4週	胸椎・腰椎						
第5週	腰椎・脊柱変形						
第6週	単元試験1						
第7週	肩関節および上腕						
第8週	肘関節および前腕						
第9週	手関節および手指						
第10週	単元試験2						
第11週	骨盤・股関節および大腿						
第12週	膝関節および下腿						
第13週	足関節および足						
第14週	単元試験3						
第15週	定期試験対策						
授業外学習指示等	授業内容に記載の疾患について、第1学年開講の整形外科Ⅰの講義内容を復習して臨むこと。 対象疾患の病態と機能障害の因果関係を理解すること。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験12年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。			期末試験 50% 実技試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト運動器障害理学療法学 I	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総論						
第2週	組織再生・修復						
第3週	骨折と脱臼						
第4週	骨折と脱臼 高齢者の四大骨折						
第5週	変形性股・膝関節症						
第6週	人工股・膝関節置換術						
第7週	関節リウマチ						
第8週	末梢神経損傷						
第9週	組織再生・修復 実技:評価と治療						
第10週	骨折と脱臼 高齢者の四大骨折 実技:評価と治療						
第11週	変形性股・膝関節症、人工股・膝関節置換術 実技:評価と治療						
第12週	関節リウマチ、末梢神経損傷 実技:評価と治療						
第13週	実技試験対策						
第14週	実技試験						
第15週	定期試験対策						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	中枢神経の全容						
第2週	中枢神経の全容						
第3週	片麻痺の原因						
第4週	片麻痺の原因						
第5週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第6週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第7週	片麻痺の評価①						
第8週	片麻痺の評価①						
第9週	片麻痺の評価②						
第10週	片麻痺の評価②						
第11週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第12週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第13週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第14週	演習①						
第15週	演習②						
授業外 学習指示 等	学習課題をノートにまとめる						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経筋疾患の多様な症状と病理を理解し、理学療法展開の基礎を構築する。			評価方法			
授業概要	神経筋疾患の多様な症状と病理の解説			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学	使用器材	液晶プロジェクター 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第5章 意識障害、脳死、植物状態 第6章 頭痛、めまい、失神						
第2週	第8章 錐体外路徴候、不随意運動 第9章 運動失調						
第3週	第10章 感覚障害 第11章 高次脳機能障害:総論・失語症						
第4週	第12章 高次脳機能障害:失認 第13章 高次脳機能障害:失行						
第5週	第13章 高次脳機能障害:失行 第14章 高次脳機能障害:記憶障害						
第6週	第15章 高次脳機能障害:注意障害 第16章 高次脳機能障害:遂行(実行)機能障害						
第7週	第17章 構音障害 第18章 嚥下障害 第19章 頭蓋内圧亢進						
第8週	試験						
第9週	第20章 脳血管障害						
第10週	第21章 認知症						
第11週	第22章 脳腫瘍						
第12週	第25章 変性疾患(錐体外路系を除く)、脱髄疾患						
第13週	第26章 錐体外路の変性疾患 第27章 末梢神経障害						
第14週	第29章 筋疾患						
第15週	第30章 感染性疾患 第31章 中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患						
授業外 学習指示 等	学習課題をノートにまとめる						

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	薬理学の基礎	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	薬理臨床開発部で約15年勤務歴有り	担当者	有竹 浩介	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 薬物が作用する仕組みについて説明できる。 2 薬物の副作用について説明できる。 3 薬物が様々な疾患にどのように利用されているか説明できる。			評価方法			
授業概要	薬理学とは何か？について理解してもらい、どのような薬がどのような疾患に利用され、どのような作用と副作用を示すのかについて解説する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック薬理学・臨床薬理学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	薬物による病気の治療、薬理学・臨床薬理学とは何か リハビリテーションに活かす薬理学・臨床薬理学						
第2週	薬による疾患治療の本質						
第3週	薬を理解するために必要な基礎知識 薬とその標的						
第4週	薬の概念と分類						
第5週	薬の作用はどのように発揮されるのか 薬物の標的、薬物の用量と作用の関係、薬物の副作用						
第6週	生体内での薬の動き						
第7週	薬の作用に影響する因子 ヒトによる薬物の効き方の違い						
第8週	薬の使い方						
第9週	感染・炎症の制御と薬物療法						
第10週	神経疾患の薬物療法						
第11週	精神疾患の薬物療法						
第12週	循環器疾患の薬物療法						
第13週	疼痛の制御と薬物療法						
第14週	注意すべき頻用される薬物						
第15週	PTOT国家試験過去問題・まとめ						
授業外 学習指示 等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						